

「第3回生物多様性国家戦略小委員会」 御中

「生物多様性に関するイオンの取組み」



平成19年6月26日
イオン株式会社
環境・社会貢献部長
高橋 晋



1. イオン株式会社の概略

設 立 : 1926年(大正15年)9月
 本 店 : 〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1
 U R L : <http://www.aeon.info/>
 資 本 金 : 1,987億9千1百万円 (2007年2月20日)
 事業内容 : 総合小売業
 営業収益 : 1兆9602億6千5百万円 (2006年度)
 店 舗 数 : 391店舗 (2007年2月20日現在)
 従業員数 : 76,318人 (2007年2月20日現在)



店舗数推移(当社)

1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
281	347	372	369	364	379	378	391

私たちイオンは、

「**お客さま**を原点に**平和**を追求し、**人間**を尊重し、**地域**社会に貢献する」というグループ理念のもと、企業市民としての社会的責任を果たすため、社会貢献活動と環境保全活動を積極的に推進していきます。同時に私たちは、これらの活動が地域に根ざしたものであると認識し、地域の方々とのパートナーシップを育み、循環型社会の構築を目指します。

＜イオン宣言＞

イオンは、日々のいのちとくらしを、開かれたところと活力ある行動で、「夢のある未来」(AEON)に変えていきます。



3. イオン株式会社 環境方針

イオン株式会社は、顧客満足業として、お客さまに安全・安心な店舗・商品・サービスの提供を通じて、豊かなくらしと地球環境保全の両立を目指します。

また、夢のある持続可能な社会の実現に貢献し、未来を担う子どもたちの健やかな成長を育んでまいります。

これらの活動の推進にあたっては、環境マネジメントシステムを運用し、定期的に見直しを行い、継続的に改善を進めます。

1. イオン株式会社は、事業活動の環境効率を向上させ、環境への負荷を低減させます。特に地球規模の課題である温暖化防止について、京都議定書の精神を尊重し、重点的に取り組みます。

1)お客さまとともに行動します

リデュース・リユース・リサイクルを実践し、省資源活動を推進します
植樹活動・育樹活動を推進します

2)環境に配慮した商品を提供します

環境に配慮した商品をお客さまに提供し、お客さまにお勧めします。また、自ら環境負荷の少ない商品を積極的に開発します
製造・配送・販売・使用・廃棄という商品のライフサイクル全体を見直し、変革します

3)環境負荷の少ない店舗運営を実践します

省エネ・省資源に取り組み、エコストア(環境に配慮した店舗)を展開します
廃棄物を削減し、適正に処理します
使用する資材や物品はより環境負荷の少ないものを選択するよう努めます

5

2. イオン株式会社は、環境負荷の高い物質を適正に管理し、汚染の防止に取り組みます。また、**生物多様性の保全に配慮します。**
3. イオン株式会社は、環境側面に関わる法規制及び受け入れを決めたその他の要求事項を順守します。
4. イオン株式会社は、この方針に従業員及び当社の事業活動を支えるすべての人々に周知し、一人ひとりが自らの役割を自覚し、自発的に行動できるようにします。
5. イオン株式会社はこの方針を広く公開します。そして多くの方々とのパートナーシップを築き、取り組みの和を広げていきます。

2006年2月21日制定
イオン株式会社

取締役兼代表執行役社長 岡田元也

5. グリーンな商品の環境コミュニケーション、 お客さまのグリーン購入

イオンのPB(プライベートブランド=自社開発商品)

「トップバリュ」・・・安全・安心・正直にこだわり、お客さまの声を最大限に取り入れて開発した商品。

トップバリュ5つのこだわり

- 1 お客さまの声を商品に生かします。
お客さまモニターなどにより、品質・機能を吟味しています。
- 2 安全と環境に配慮した安心な商品をお届けします。
添加物使用の削減や環境負荷の少ない原材料・包材を使用しています。
- 3 必要な情報をわかりやすく表示します。
遺伝子組み換えや栄養成分をはっきりと表示します。
- 4 お買得価格でご提供します。
ナショナルブランドより、お求めやすい価格に設定します。
- 5 お客さまの満足をお約束します。
万が一、ご満足いただけない場合は、返金・お取り替えをします。

環境保全および安全・安心 のサブブランド

「トップバリュ グリーンアイ」
「トップバリュ 共環宣言」



7

イオンのプライベートブランド トップバリュ グリーンアイ

自然の力を生かして育てた農・水・畜産物、
それらを原料とする加工食品のブランド



有機農産物(転換期間中含む)有機加工食品



主原料に有機農産物を50%以上使用した食品



化学合成された農薬や肥料、抗生物質、人工着色料などの化学製品の使用を極力抑えた食品



オーストラリア最南端のタスマニア島の広大な牧場で、成長ホルモン剤や抗生物質および肉骨粉や遺伝子組換え飼料などを一切使わない安心肥育

8



トップバリュ グリーンアイ 5つの基準

1. 人工着色料、人工保存料、人工甘味料を使わない食品を扱います。
2. 化学肥料、農薬、抗生物質などの化学製品の使用を極力抑えて生産します。
3. 適地・適期・適作・適肥育など、自然力によるおいしさを大切にします。
4. 環境や生態系の保全に配慮した農業をサポートします。
5. 自主基準に基づき、生産から販売までを管理します。

「イオン農産物取引先様品質管理基準」

農産物における安全危害最小化を目指し、安全・安心を確保するために取り決めた品質管理基準。生産をお願いしている契約農家数は全国約3500軒に及ぶ。(2004年4月時点)

「農産物データ管理システム」

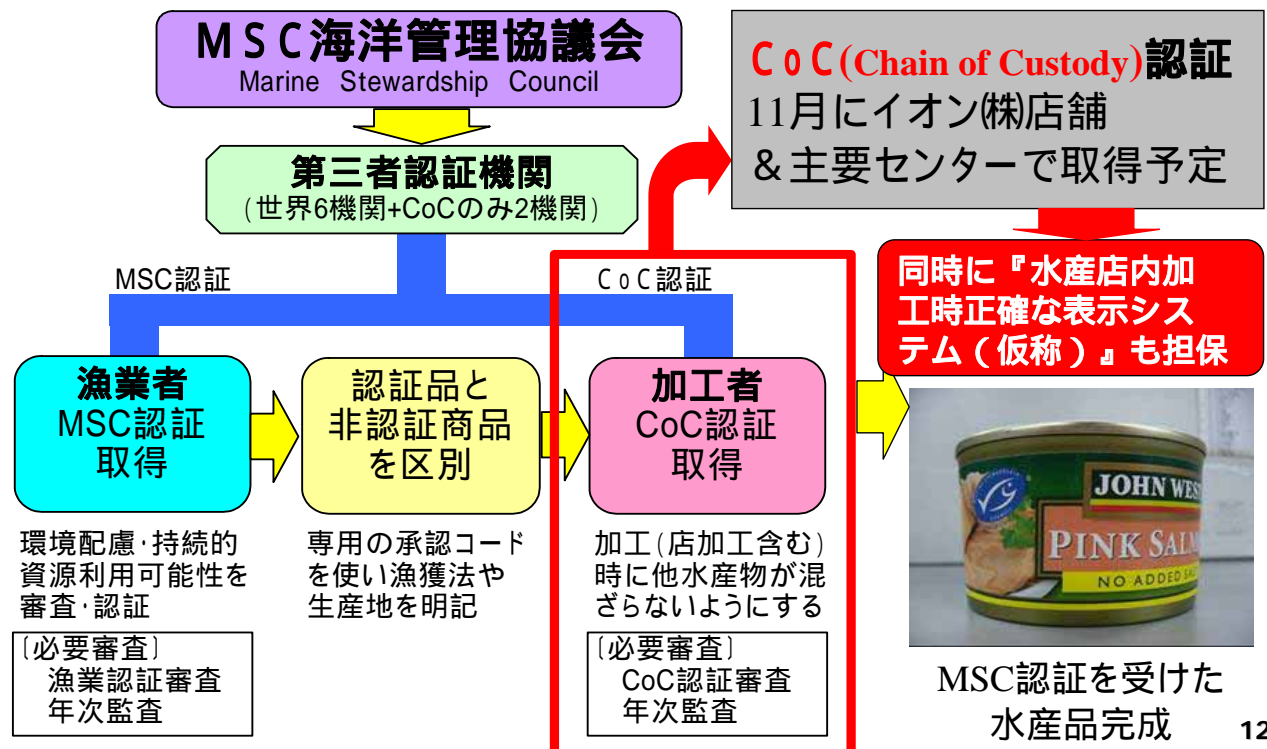
農薬・施肥・生育レポート等を直接生産者がパソコン、携帯電話、FAXなどで入力・送信でき、それらの情報を店頭や自宅のパソコンで確認できるシステム

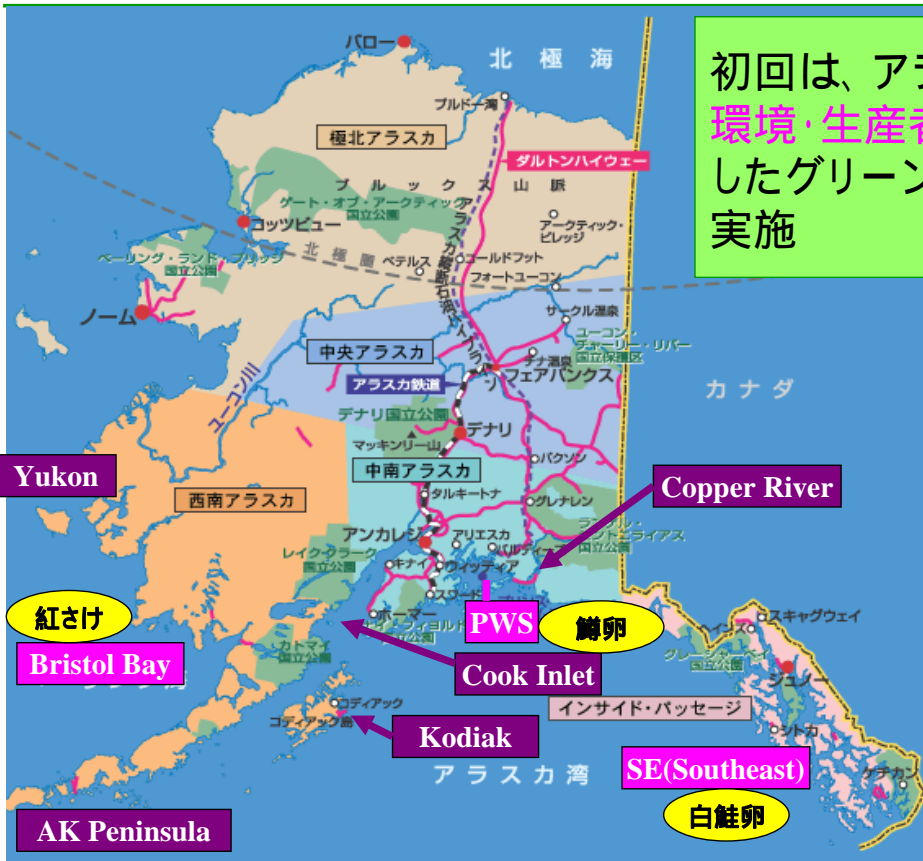
農家の方が
持っています



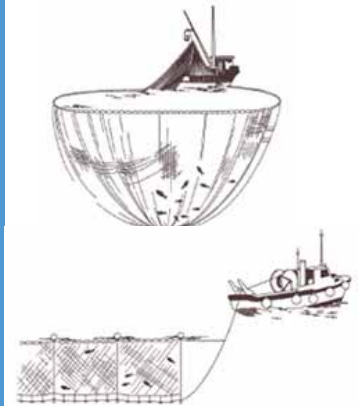
7. MSC 認証審査の仕組み

MSCの「漁業者認証」と「加工業者認証」で成り立つ





初回は、アラスカに絞込み、
環境・生産者情報を武器と
したグリーンアイ商品開発
実施



アラスカのサケ漁業 (2000年9月認証取得)

漁獲場所	アラスカ州沿岸の領海内
漁獲方法	流し網、定置刺網、巻網、トロール
管理方法	アラスカ州漁業狩猟局 (ADF & G : Alaska Department of Fish and Game) が管理。 アラスカ州憲法がサケ生息域の保全保護を要求。
法律・規制内容	漁期と休漁期、網サイズ制限、漁獲量制限、 性とサイズ制限、漁獲と輸送方法の特定、 水系と生息域改善、サケの保護、 保全 (孵化放流事業)、利用方法、廃棄方法、 繁殖域確保、供給条件特定、商業漁業制限、 レジャー漁業・先住民漁業制限規制

6_FSC認証_B3



このマークの製品は
**FSC (森林管理協議会) 認証パルプと
 植林木パルプ (一部間伐材等含む) で作られています。**



FSC (Forest Stewardship Council)

1993年、世界中全ての森林を対象に、「環境保全の点から見て適切で、
 社会的な利益にかなない、経済的にも継続可能な森林管理を推進すること」を
 目的に設立されました。



トップバリュ デジタルカメラ写真用紙
 インクジェットプリンター用 (光沢紙)
 L判 110枚 **498円** L判 220枚 **898円**



トップバリュ カラー用紙
 A4判 100枚入り
 (クリーム・桃色・水色) 各 **298円**



トップバリュ OA用紙
 インクジェット A4 100枚 **498円** プリンター用 A4 200枚 **298円**

15

オーストラリアで、日本企業7社と共に
 ABL社を設立して、植樹事業に参画している。



16

8. 「イオンふるさと森づくり」

グループ累計植樹本数の推移-1991年より延べ63万人のお客さまのご参加・630万本、573ヶ所
(2007年2月20日現在)

累計植樹本数 (単位: 本)

1997年	2,242,997
1998年	2,778,163
1999年	3,288,774
2000年	4,026,180
2001年	4,257,126
2002年	4,573,743
2003年	4,887,729
2004年	5,311,121
2005年	5,840,114
2006年	6,308,419



「育樹祭」では成長した苗木への施肥、除草を実施



「植樹祭」では地域の自然環境に適した苗木を植樹



17

9. イオン1%クラブ



1989年に設立された「イオン1%クラブ」は、グループ優良企業の税引き前利益の1%を資金とし、「環境保全」「国際的文化、人材交流」「地域の文化・社会の振興」を柱としたさまざまな活動を実施しています。



【ラオス】イオンさくらスクール



オーストラリアの「小さな大使」たち

18

10.



設立15周年記念の一環として、2006年11月23日ケニアで植樹活動を行いました。アフリカでの活動は初めてのことになります。ノーベル平和賞受賞者でMOTTAINAIキャンペーン名誉会長のワンガリ・マータイ女史が取り組んでいるグリーンベルト運動の一助となるべく、日本からボランティア150名が参加して3,540本の植樹を実施しました。

2006年度は、国内外9箇所で植樹を行い、累計85万本の植樹をしました。また環境NGOへの助成事業は現在まで、1,887の団体に総額162,339万円を助成しています。



ケニアでの植樹活動

11. イオン・デー (毎月11日)

2001年8月21日の社名変更を機に、毎月11日を「イオン・デー」と名づけエコロジー(環境)とローカル(地域還元)をテーマに様々な活動を行っています。

「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」

お客様がレジ精算時に受け取った黄色いレシートを専用BOXへ投函頂くと、お買い上げ金額合計の1%が地域のボランティア団体等に希望される商品として寄贈されるシステム
- 1億1,142万円を13,421団体に商品で還元(2006年度)

「イオンクリーンロード活動」(アドブロードプログラム等)

「クリーン&グリーン活動」に加え2002年1月より実施

「イオン宣言」の振り返り

イオン宣言
イオンは
日々のいのちとくらしを
開かれたところと活力ある行動で
「夢のある未来」(**AEON**) に変えていきます。



約60万の換算額で
取り上げていただきました。

